

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 公開特許公報(A)

(11) 特許出願公開番号

特開2006-103801

(P2006-103801A)

(43) 公開日 平成18年4月20日(2006.4.20)

(51) Int. Cl.	F I	テーマコード (参考)
B 6 5 D 51/32 (2006.01)	B 6 5 D 51/32 Z	3 E 0 8 4
A 4 5 D 34/04 (2006.01)	A 4 5 D 34/04 5 1 5 Z	4 F 0 4 2
A 4 5 D 40/00 (2006.01)	A 4 5 D 40/00 Q	
B 0 5 C 17/00 (2006.01)	B 0 5 C 17/00	

審査請求 未請求 請求項の数 11 O L (全 7 頁)

(21) 出願番号	特願2005-292374 (P2005-292374)	(71) 出願人	502393877 ゲーカ ブルシュ ゲゼルシャフト ミッ ト ベシュレンクテル ハフツング ドイツ連邦共和国 デー・9 1 5 7 2 ベ ヒホーフエン ヴァイツェンドルフ
(22) 出願日	平成17年10月5日 (2005.10.5)	(74) 代理人	100091867 弁理士 藤田 アキラ
(31) 優先権主張番号	04023990.7	(72) 発明者	ヴェルナー フィッシャー ドイツ連邦共和国 デー・9 1 5 9 6 ブ ルク ディンケンスビューラー シュトラ ーセ 5
(32) 優先日	平成16年10月8日 (2004.10.8)	(72) 発明者	フリードリヒ ヴァイゲル ドイツ連邦共和国 デー・9 1 7 4 9 ヴ イッテルスホーフエン グリュープ 1 b
(33) 優先権主張国	欧州特許庁 (EP)		

最終頁に続く

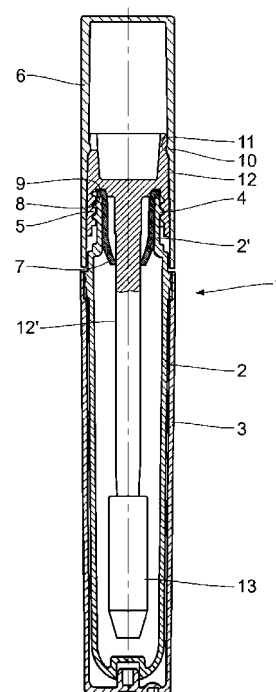
(54) 【発明の名称】 化粧品、特にマスカラ・ユニットのための効果的なパッケージ

(57) 【要約】 (修正有)

【課題】化粧品、特にマスカラ・ユニットのための効果的なパッケージであって、化粧品のための保存容器と容器を取り囲む透明なカバーとを備えて成り、容器とカバーが少なくとも部分的に、互いに距離を置いている効果的なパッケージを、魅力的な外観を獲得するために、低コストで製造可能とすること。

【解決手段】容器(2)の底部と共働するセンタリング装置が外装カバー(3)の底部に設けられていて、ロック溝とロック凸部の共働により、容器(2)と外装カバー(3)が軸線方向の動きにより互いに結合可能であること。

【選択図】 図1



【特許請求の範囲】

【請求項 1】

化粧品、特にマスカラ・ユニットのための効果的なパッケージであって、化粧品のための保存容器と、容器を取り囲む透明なカバーとを備えて成り、容器とカバーが少なくとも部分的に、互いに離れている効果的なパッケージにおいて、

容器（２）の底部（１８）と相互作用するセンタリング装置が外装カバー（３）の底部（１４）に設けられており、

ロック溝（２２）とロック凸部（２３）の共働により容器（２）と外装カバー（３）が軸線方向の動きにより互いに結合可能であることを特徴とする効果的なパッケージ。

10

【請求項 2】

カバー（３）の底部（１４）の内側にコック乃至差し込み口（１５）形のセンタリング装置が形成されており、該コックが容器（２）の底部（１８）の対応する凹所（１９）と結合することを特徴とする請求項 1 に記載の効果的なパッケージ。

【請求項 3】

コック（１５）が中窪で長手方向に延在するスロット乃至切れ目を有することを特徴とする請求項 1 に記載の効果的なパッケージ。

【請求項 4】

コック（１５）の上部が円錐形かあるいは丸みを帯びたテーパ状であることを特徴とする請求項 1 に記載の効果的なパッケージ。

20

【請求項 5】

カバー（３）がワンピース乃至一部片状に形成されていることを特徴とする請求項 1 に記載の効果的なパッケージ。

【請求項 6】

カバー（３）がガラス製であることを特徴とする請求項 1 に記載の効果的なパッケージ。

【請求項 7】

カバー（３）と容器（２）の間隙が最小でも 0.1 mm であることを特徴とする請求項 1 に記載の効果的なパッケージ。

【請求項 8】

カバー（３）の壁の厚みが 0.3 乃至 10 mm であることを特徴とする請求項 1 に記載の効果的なパッケージ。

30

【請求項 9】

容器（２）が透明か、または着色されていることを特徴とする請求項 1 に記載の効果的なパッケージ。

【請求項 10】

容器（２）が印刷され、刻印（HF stamping：ホットフォイル・プレス）されているか、あるいは金属で被覆されていることを特徴とする請求項 1 に記載の効果的なパッケージ。

【請求項 11】

カバー（３）が少なくとも部分的に金属で被覆されていることを特徴とする請求項 1 に記載の効果的なパッケージ。

40

【発明の詳細な説明】

【技術分野】

【0001】

本発明は化粧品、特にマスカラ・ユニットのための効果的なパッケージであって、化粧品のための保存容器と容器を取り囲む透明なカバーとを備えて成り、容器とカバーが少なくとも部分的に、互いに距離を置いている効果的なパッケージに関するものである。

【背景技術】

【0002】

50

その様なパッケージは特にプラスチック製である。透明な外装カバーは内側の容器と連携して視覚的に、極めて壁の厚いガラス容器の印象を想起させる。壁の厚いガラス容器は内側の容器と外側のカバーの間に存在し得る異なる距離ゆえに、壁の厚さが異なるように見え、これにより視覚的に高品質な印象を生じる。

【0003】

従来の方法ではその様なパッケージの製造は、例えば射出成形、いわゆるインサート技術により、容器を吹き、型に入れて型成形するか、あるいは超音波溶接により連結して製造され、手間がかかりコストが嵩む。

【発明の開示】

【発明が解決しようとする課題】

10

【0004】

このことから本発明の根底をなす課題は、冒頭に述べた種類のパッケージ・ユニットを、迅速且つ低コストで製造可能とし、完成品においては魅力的な外観を提供することにある。

【課題を解決するための手段】

【0005】

この課題は本発明に従い、容器の底部と共働するセンタリング装置を外装カバーの底部に配設すること、またこの中で容器と外装カバーがロック溝とロック凸部の共働により軸線方向の動きにより互いに結合可能であることにより解決される。センタリング装置もまた軸線方向の動きにより結合される。

20

【発明の効果】

【0006】

有利には更に、非回転式の連結のために、少なくとも1つの縦溝とこの溝とかみ合う1つの突起部が容器あるいはカバーに備えられている。

【0007】

本発明に従う形態により容器とカバーを夫々別々に、低コストで製造することが可能であり、軸方向の単純な動きにより手動あるいは機械により連結可能である。自動的な中心合わせ（センタリング）に基き、カバーと容器の間に厳密に決められた間隔があげられ、永続的に保たれる。その結果、カバーの内壁は容器の外壁に当接せず、そこには非常にわずかな隙間が生じるので、目指す視覚的效果が妨げられることはない。

30

【0008】

有利には、カバー底部の内側にコック（樽口乃至差し込み口）形状のセンタリング装置が設けられており、該コックがこれと対応する容器底部の凹所とかみ合う。

【0009】

より堅牢で確実な連結を創出するために、コックが中窪（中空）で、長手方向に延在するスロット（割れ目）を有していれば好都合である。

【0010】

コックと凹所の結合を容易にするために、コック上部が円錐形あるいは丸みを帯びたテーパー状に形成されていても良い。

【0011】

40

カバーはワンピース（一部片状）に形成されているのが望ましく、ガラス製でも良い。カバーと容器の間の最低限の間隙が0.1mmであれば好都合である。カバーの壁の厚みは0.3mmから10mmの間で良い。容器は透明であっても着色されていても良い。また印刷、刻印されていても、金属で被覆されていても良い。カバーもまた、少なくとも部分的には、金属で被覆されていても良い。容器の容量は1mlから30mlの範囲で可能である。

【発明を実施するための最良の形態】

【0012】

以下に、図面を用いて本発明の実施例を詳細に説明する。

【0013】

50

本実施例では本発明に従う化粧品のパッケージをマスカラ・ユニット 1 を基にして説明する。とはいえ、本発明によるコンセプトは同様の方法で、例えばリップやネイル用の化粧品、また他のパッケージの高品質な印象が重要となる製品にも利用可能である。

【0014】

マスカラ・ユニット 1 はマスカラ液のための内部保存容器 2 と外装カバー 3 とを備えて成り、両者は共にプラスチック製である。外側のカバー 3 は透明である。内部の容器 2 も透明で良いが、透明である必要はない。

【0015】

容器 2 の上部に径が先細りのネック部 2' が形成されている。ネック部 2' に備えられた雄ねじ 4 にキャップ 6 の雌ねじ 5 がねじ止めされる。

10

【0016】

ネック部 2' に拭き取り装置 7 が挿入されている。該拭き取り装置は、シールの役割を果たしているカラー（縁環）9 を備えたネック部 2' の正面側に重なり合うように延在している。

【0017】

キャップ 6 の内側の環状凸部 10 とこれに対応する塗布具（アプリケーション）担持体 12 の溝 11 を介して、ステム（軸）12' がキャップ 6 の中に差し込まれている。ステム 12' の下部自由端に塗布具 13 が配されている。キャップ 6 のねじを外して塗布具 13 を引き抜いた際、塗布具は拭き取り装置 7 を用いて拭き取られる。

【0018】

20

図 2 よりカバー 3 の底部 14 とワンピース（一部片状）にコック（差し込み口）15 が配設されているのが明らかである。該コック 15 は上方に開いた空所 16 を有しており、スロット（図示されない）と共に柔軟な撓みを可能にしている。コック 15 の上部端 17 は円錐形である。

【0019】

凹所 19 が容器 2 の底部 18 とワンピース（一部片状）に形成されている。該凹所の内径はコック 15 の外径と同じか、あるいはコック 15 と比べてわずかに小さい。

【0020】

2 つの向かい合い、軸線方向に延在し、側面乃至横手方向に突き出した付属部 20 が容器 2 の上部に設けられている。該付属部はこれと対応する、カバー 3 の内側のスロット形の凹部 21 とかみ合う。これによりカバー 3 と容器 2 の軸線方向の回転に対する安全装置が備えられる。

30

【0021】

図 3 より同様に、容器 2 がネック部 2' の下方に溝あるいは凹部 22 を有し、カバー 3 の内側の突起部 23 がこれとかみ合い、これにより軸線方向の連結と固定が可能になっていることがわかる。

【0022】

製造過程では、容器 2 とカバー 3 は夫々個別に製造される。しかる後に、容器 2 がカバー 3 の中へ、コック 15 形状のセンタリング装置が凹所 19 とかみ合うまで、上から軸線方向に挿入される。その結果、カバー 3 に対する容器 2 のセンタリングが得られる。その際同時に、横手方向の突起部 20 がスロット形状の凹部 21 とかみ合い、連結は回転しなくなる。またこの時更に、突起部 23 が凹部 22 とかみ合い、これにより軸線方向の固定が可能となる。

40

【図面の簡単な説明】

【0023】

【図 1】マスカラ・ユニットの形状をとった本発明に従う化粧品のパッケージ全体の縦断面図である。

【図 2】連結部分を拡大した容器とカバーの縦断面図である。

【図 3】図 2 を 90° 回転させ、同様に連結部分を拡大した縦断面図である。

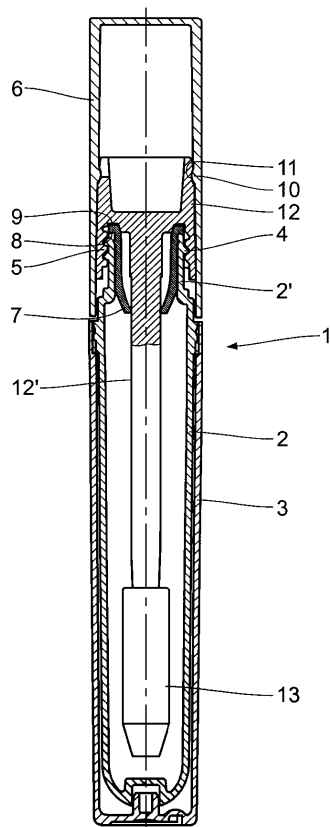
【符号の説明】

50

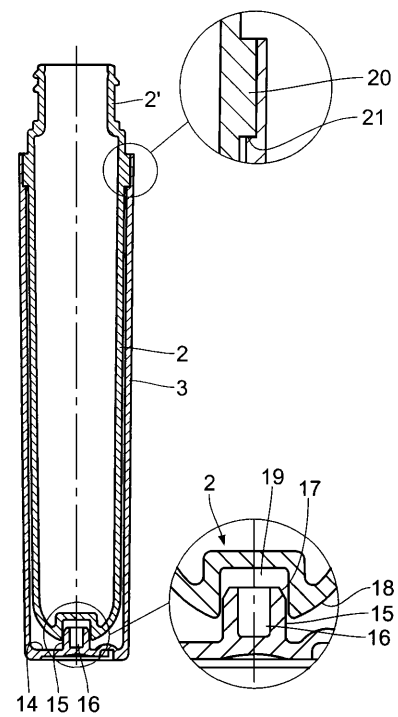
【 0 0 2 4 】

- 2 容器
- 3 外装カバー
- 6 キャップ
- 1 4 外装カバー底部
- 2 2 ロック溝
- 2 3 ロック凸部

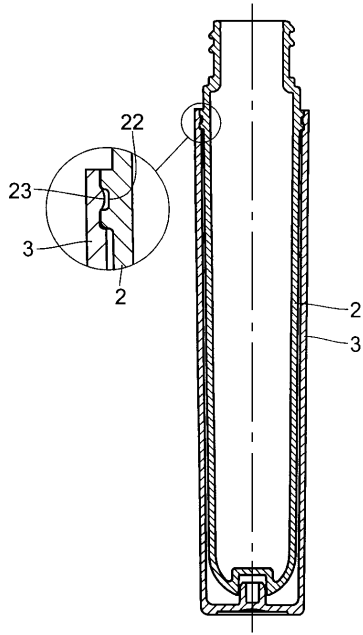
【 図 1 】



【 図 2 】



【図 3】



フロントページの続き

(72)発明者 ノルベルト ドゥムラー

ドイツ連邦共和国 デー・9 1 5 2 2 アンスバッハ ツィアルヴェーク 4

Fターム(参考) 3E084 AA02 AA12 AA24 AB09 BA01 CA01 CB02 CC03 FC07 GA04

GB04 JA01 LA17 LB02 LB07

4F042 FA24 FA30